

研究計画書

①当該分野の状況

國枝の研究(2021)では、MMT(現代貨幣理論)の問題点を指摘している。MMTは政府が自由に通貨を発行できると主張するが、國枝氏は以下の問題を挙げている。まず、MMTには明確な数学モデルがないこと、租税が貨幣を動かすという主張が普遍的でないこと、主要な政策提言が否定されること、その他の経済学的誤りがあることだ。論文ではMMTの基本的内容を解説し、通貨発行益が財政ファイナンスでミスリーディングを起こす可能性を論じている。また、MMTが実証可能な数学モデルに基づいておらず、インフレのリスクが不明確であること、財政政策への影響についての懸念が述べられている。中盤では、具体的な主張の問題点を指摘し、通貨発行がインフレーションを引き起こし財政引き締めが必要になる可能性や、法定通貨の理解に関する誤解について言及している。終盤では、MMTの納税のための現金需要が実際には重要でないこと、源泉徴収制度の存在、納税準備預金制度の影響などが指摘され、MMTの論理的破綻が示されている。筆者は、政府の財政支出には制約を留意すべきだと強調している。國枝氏の論文はMMT(現代貨幣理論)の問題点を指摘し、政府の通貨発行が自由であることに対する疑問を提起している。MMTには明確な数学モデルがなく、租税が貨幣を動かすという主張が普遍的ではないこと、主要な政策提言が否定されること、そして経済学的誤りがあると述べている。論文は通貨発行益が財政ファイナンスでミスリーディングを起こす可能性、MMTの主張が実証可能なモデルに基づいていないこと、インフレーションリスクの不明確さ、財政政策への影響について懸念を示している。また、通貨発行がインフレーションを引き起こし、財政引き締めが必要になる可能性や法定通貨の理解に関する誤解についても指摘している。私は、政府が貨幣を発行する権利の根拠や、日本銀行が紙幣を発行する権利について疑問を抱いている。さらに、通貨を無制限に発行すれば価値が下がることは自明であり、國枝氏の主張に同意すると述べている。MMT論者は基本的な部分を理解していないのではないかと疑問を呈している。私は国債についても言及し、償還の必要性や税金の利用について意見を述べ、過去の清算のために税金を使うのではなく未来の生産に向けるべきだと主張している。

②先行研究の課題・問題意識

国債とGDPの関連について論じている論文が見つからない。
日本と経済状況が類似している又は疑似していた国があったのか、明確なデータが見つからないのが現状です。

③RQーリサーチ・クエスチョン

・今の日本のような国債状況にかつて陥っていた、または現在陥っているような国はないのか？あるなら、なぜ経済的な危機から回復できたのか？

④研究テーマ

・日本の国債残高の行方について

⑤RQに対する仮説

私は今の日本の様に国債が増え続けている国はあると思う。そこから回復した方法として、増税したのではないかと考える。

⑥研究目的

次に調べることは今の日本のような国債が増え続けている、陥っている又は陥っていた国はないのか調べる。
最終的に本研究では歴史的な根拠等と共に論文を作成する事が目的である。

⑦研究内容／研究方法

過去には國枝氏、青山氏や中島氏の論文を取り扱い、様々な日本の国債に関する情報を学んできた。直近では学校の図書室などを中心に国債に関する本を探している。

<今後の方針>

・今後の研究方針として、関連する論文の書評を作成し、理解を深めることで自身の論文作成を目指している。また、日本経済の現状を確認するため、政府のホームページ、報告資料、再度学校の図書室などを活用する予定である。

⑧参考文献リスト

青山浩一郎(2003)「国債発行残高の増大に関する注目点」

<https://tama.repo.nii.ac.jp/records/64>

國枝繁樹(2021)「MMT(現代貨幣理論)の問題点について」

https://scholar.google.co.jp/scholar?q=MMT%EF%BC%88%E7%8F%BE%E4%BB%A3%E8%B2%A8%E5%B9%A3%E7%90%86%E8%AB%96%EF%BC%89%E3%81%AE%E5%95%8F%E9%A1%8C%E7%82%B9%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6&hl=ja&as_sdt=0&as_vis=1&oi=scholar

富田俊樹(2006)『国債の歴史』

中島将隆(2013)「なぜ赤字国債の無制限発行が可能になったのか」

[https://scholar.google.co.jp/scholar?hl=ja&as_sdt=0%2C5&q=%E3%81%AA%E3%81%9C%E8%B5%A4%E5%AD%97%E5%9B%BD%E5%82%B5%E3%81%AE%E7%84%A1%E5%88%B6%E9%99%90%E7%99%BA%E8%A1%8C%E3%81%8C%E5%8F%AF%E8%83%BD%E3%81%AB%E3%81%AA%E3%81%A3%E3%81%9F%E3%81%AE%E3%81%8B&btnG=](https://scholar.google.co.jp/scholar?hl=ja&as_sdt=0%2C5&q=%E3%81%AA%E3%81%9C%E8%B5%A4%E5%AD%97%E5%9B%BD%E5%82%B5%E3%81%AE%E7%84%A1%E5%88%B6%E9%99%90%E7%99%BA%E8%A1%8C%E3%81%8C%E5%8F%AF%E8%83%BD%E3%81%AB%E3%81%AA%E3%81%A3%E3%81%9F%E3%81%AE%E3%81%8B%E3%81%AA%E3%81%9C%E8%B5%A4%E5%AD%97%E5%9B%BD%E5%82%B5%E3%81%AE%E7%84%A1%E5%88%B6%E9%99%90%E7%99%BA%E8%A1%8C%E3%81%8C%E5%8F%AF%E8%83%BD%E3%81%AB%E3%81%AA%E3%81%A3%E3%81%9F%E3%81%AE%E3%81%8B&btnG=)